

會 報

昭和二十一年二月二十七日印刷

昭和二十一年二月二十八日發行

三重縣一志郡久居町二ノ町

編輯者 大 倉 正 文
發行人

大阪府東區行田町四三

印刷所 天業社印刷所

三重縣一志郡久居町二ノ町

大倉正文方

發行所 近畿甲蟲同好會

昭和 21 年 2 月

VOL. 1 NO. 2

TRANS. KINKI COLEOPT. SOC.

FEB. 1946

京阪神地方に於ける斑蝥相に就いて

後 藤 光 男

ON THE CICINDELIDAE-FAUNA OF THE
DISTRICTS OF KYOTO, OSAKA AND KOBE.

By MITSUO GOTO

(昭和 21 年 1 月 14 日受領)

1)2)

大阪附近の斑蝥類に就ては、すでに福貴正三氏及び二三の報告があるが然し數年
後の今日此等の報告を以て當地方に於ける本科の全貌を知り得たとは云へない。又
訂正、増補すべき個所も相當出來て來て居る。筆者は過去數年前より多數の蟲友諸
氏援助のもとに極力本科の採集、分布の調査に努力して來たが今回大體其の一端を
知る事が出來得たので、此處にこれを公にし諸賢の御參考に供する次第である。

本文を草するに當り種々御援助賜つた蟲友諸氏に萬腔の謝意を表する次第である。
筆者の茲に京阪神と稱する範圍は京都府の南西部、大阪府の全部、兵庫縣神戸市
の近郊にして、此の外奈良縣、和歌山縣の一部を含めたる相當廣い意味のものであ
る。又當地方の採集地を見るに京都府にありては 貴船・鞍馬・西山の山地、及び桂
川・加茂川の河川、大阪府にては猪名川・淀川・大和川の各河川の流域、能勢妙
見・箕面・止止呂美・生駒・高安・金剛・葛城の山地及び濱寺・堺・助松等の海濱
地、兵庫縣に於ては六甲・甲山・摩耶山の山々、加古川・武庫川等である。

1) 福貴正三：大阪附近の斑蝥類，關西昆蟲雜誌 Vol. I, No. 2, pp. 55-56 (1933).

2) ——：再大阪附近の斑蝥類，大阪昆蟲同好會々報 Vol. I, No. 2, pp. 59-64 (1936).

以上掲けたる採集地はほんの一部に過ぎず未だ未調査の地も多々あり、又本文に記載せしものの外棲息するや否や疑問の種も二三あり今後諸賢の御協力を願ひ調査する所存である。

○ 1) Cicindela japona Motschulsky ニハハンメウ

Etud. Ent., VI, p. 18, t. 1, f. 2, (1857).

個體により體色一定せず、一般に茶褐色乃至綠色なるも時として稍々黑色を呈するものあり、又斑紋の變化も甚だ多し。

極く普通に産し至る處にて得られる。

體長：15—18 mm.

分布：日本全土・朝鮮

【附記】本種の内上唇黑色にして半透明の紋を有し、中央の一齒を缺き、翅鞘紋は暗黃褐色にして斑紋型狀固定したるものを稱して C. japona tozana Oike と云ふ、未だ當地方にて得たるこゝがない。

○ 2) Cicindela hybrida japonensis Chaudoir コニハハンメウ

Bull. Soc. Nat. Mosc., XXXVI, p. 202, (1863).

極く普通に産し、河原に多く産する。猪名川・武庫川・大和川・千里川・余野川等にて得られる。

體長：11 mm 内外

分布：日本 土

○ 3) Cicindela gemmata Faldermann アイヌハンメウ

Mem. Acad. Petersb., II, p. 350, t. 3, f. 1, (1835).

體色は一般に赤銅色を呈し、稍々綠色味を帯びるものあり、上唇は黄色にして前縁一直線を呈す。斑紋は褪黄色にして肩部、中央、翅端に有し、肩部の紋は完全に2分せられ、中央横帯紋はへ字形にして、翅端の月形紋は上端内方に彎曲して圓形に膨大するが、時として圓形紋と尾端紋の二つに分離する。中央横帯紋と翅端紋とは一般に平行でない。

本種は山谷文仁氏が述べられて居る如く、關西地方に多産するに係はらず現在まで採集されて居らない爲かあまり知られて居ない。筆者は僅かに次の産地を知るのみである。北攝止止呂美(山本皓士氏 6—VII—1938)、北攝川尻(田中龍三氏 1—V—1932)、愛宕山裾清瀧川原(中島章夫氏 ? ? 1933)、猪名川上流多田附近(筆者採集 11—V—1941)の五ヶ所にして猪名川にては相當多産し、見知せし處に依れば C. japona Motschulsky = ハハンメウより多く、川原の砂地に本種が百五六十頭群棲

3) 尾池一清、關西昆蟲學會報 No. 7, p. 76 (1936).

4) 蟲の世界, Vol. 3, No. 3/4 p. 11 (1939).

してゐるのを見たことがある、尙福貴正氏が大阪昆蟲同好會々報に C. sumatrensis Herbet スマトラハンメウとして大阪附近斑蝥科の Fauna に加へられてゐるものは本種であるので茲に訂正して置く。

體長：16—19 mm.

分 布：日本（北海道・本州・四國）・アムール・蒙古・滿洲・支那・朝鮮

【附記】本種の内複眼間の白色毛は規則的な環狀に配列せられ、前胸背版の中央の一縱溝は深く、中央横帶紋と平行なるものを C. gemmata shikokuana Oike と稱せられる。然れども筆者の採集せし多數の標本中本亞種に該當するものを見出し得ず。

4) Cicindela lewisi Bates リユキスハンメウ

Trans Ent. Soc. London, p. 226, (1873).

體黑色を呈し、鈍き銅色光澤を有す、上唇は短かく前縁一直線にして予にありては中央に一齒を僅かに認め得る。斑紋は黄色にして何れも太く顯著に中斷されざる完全なる月形紋を肩部及び尾端に配す。當地にては相當稀なるものの如く、筆者の檢せし標本は積寺（2—VI—1934, 13—IV—1935 福貴正三氏採集）・大和川川口（5—VIII—1926 筆者採集）・兵庫縣高砂海岸（18—VIII—1943 小南一三氏採集）である。

體長：15—17 mm

分 布：日本（本州・四國・九州）濟州島・朝鮮・北支那

5) Cicindela elisae Motsuchulsky エリザハンメウ

Bull. Soc. Nat. Mosc., XXXII, 2, p. 487 1859)

極く普通に産し濕地に多し、又夜間好んで電燈に集る。至る處にて得られる。

體長：8—10.5 mm

分 布：日本全土・濟州島 朝鮮・滿洲・蒙古

6) Cicindela specularis Chaudoir コハンメウ

Cat. Coll. Cic., p. 24 (1865).

翅鞘斑紋の變化甚だ多し、予は翅鞘基部の後方縫合線に添ひ其の兩側に各々黑色の光澤ある圓形小斑紋を有するを以て乍と容易に區別することが出来る。濕氣ある路傍乃至泥地に多く見受られる。

體長：12.5 mm 内外

分 布：日本（本州・九州・四國）・沖繩本島・臺灣・朝鮮

7) Cicindela gracilis Pallas ホソハンメウ

Reisen Russ. Rechts., II, Anhang, p. 28 (1777)

體細長く黑色を呈し光澤鈍し。上唇は黑色にして中央部縦に隆起す。縫合部の翅

5) 尾池一清、關西昆蟲學會々報 No. 8, p. 15, (1939)

端に近く赤褐色の斑紋を印す。♂は上唇の中央に黄白紋を有すれども早にては之を缺くことに依り容易に♂♀の區別が出来る。

7) Cicindela gracilis Pallas var. angustata Fischer. von Waldheim

Ent. Ross., II, p. 5, t. 39, f. 12 (1823-24)

原種と異なる處は翅鞘縫合部の翅端に近く赤褐色の斑紋を缺くことに依り區別す。

原種變種共奈良岫草山に多産す。1931年福貴正三氏に依り1♂を得られて後續々採集せられ、最初は同山の一部分にしか産する事が知られなかつたが、現在では全山にて採集出来る。本種は同山の小路を脚早に横切り、採集の際蟻と間違へることあり、飛ぶのを認めたることがない、又待兼山(大阪府豊中市附近)にても得られたが現在では住宅地となり、續々家屋が建てられた爲か、現在では採集された話を聞かない。

體長: 11 mm 内外

分 布: 日本本州(東京・奈良・大阪・青森)⁶⁾・濟州島・朝鮮・滿洲

8) Cicindela laetescripta Motschulsky カハラハンメウ

Schrenck's Reisen Amurl., II, p. 88, t. 6, f. 1, (1860)

體青綠黑色を呈し、鈍き眞鍮光澤を有す。上唇は黄色を呈し短く略々長方形にして、前縁中央に僅かに一齒を裝ふ。各斑紋及び周縁の黄色は非常に幅を増して太くなり、又基部に近く縫合部に添ひて長楕圓形に近き2紋を各兩側に縦に並列し、暗綠青色の地色は非常に狭められる。當地に産するも現在まで知られてゐるのは大和川川口・淡寺海岸(大阪府)・武庫川下流(兵庫縣)等で個體數は非常に少い。

8) C. laetescripta Motschusky var. circumpicta Horn

Deutsche Ent. Zeitschr., p. 91, (1895)

本變種は翅鞘の肩部・中央帶紋並びに翅端紋は連續融合し、周縁は黄色を呈し、恰も黄色の地の中央に暗綠青色の斑紋を印した様なものである。

相當稀なるものの如く筆者は現在堺海岸(14—VII—1936筆者採集)の1♂を有するだけである。

體長: 15—17 mm

分 布: 日本全土・朝鮮・支那・滿洲・蒙古

9) Cicindela chinensis DeGeer ハンメウ

Mém. Ins., IV, p. 119, t. 17, f. 23 (1774)

山地及平地に極く普通に産し至る處にて得られる。大阪市中にて得たことがある。

6) 山谷文仁: 蟲の世界 Vol. 3, No. 3/4, p. 41, (1939)

7) 上田政雄: 湊速高校尋常科博物同好會々誌 No. 10, pp. 57—58 (1936).

9) C. chinensis DeGeer var. japonica Thunberg

Dissert. Ent. Nov. Ins. Spec., I, p. 25, t. 1, f. 39 (1781)

原種と異なる處は中央の横帯部で中央部の縞れて2分したものである。本變種は相當稀で六甲山(兵庫縣)の一端を有してゐるだけである。

體長: 21 mm

分布: 日本全土・沖繩・濟州島・朝鮮・關東州

10) Cicindela nivivincta Chevrolat シロヘリハンメウ

Rev. Zool., VIII, p. 98 (1845)

體黑色を呈し、青銅色狀の光澤を有するか、一樣に金綠色乃至金色の金屬光澤を有する。上唇は黄色を呈し前縁は暗褐色で外見短く長方形を呈する。前縁中央には3箇の鋭き齒を裝ふ。子にありては基部より約三分ノ一後方縫合部の兩側に各一個の黑色にして鏡面狀に輝く小斑紋を裝ふ、此の斑紋の周縁は往往赤銅色に輝く。肩部の角より側縁に添ひ翅端に至る迄細く黄色く縁取られる。

本種の生活史に就ては福島弘氏の報告がある。筆者の知る採集地は淀川下流塚本町(大阪市)附近で、淀川堤防下の濕地に C. elisae Motschulsky エリザハンメウと共に相當多く採集した。その比は5:1位でエリザハンメウに比して動作は緩慢である。

體長: 9.5~11.5 mm

分布: 日本(本州)・臺灣・琉球・海南島・印度支那

(附記) 本種には一亞種 C. nivivincta inspecularis Horn が記録されてゐるが未だ採集したことはない。

以上當地方に産する10種の斑蝥に就いて記録したが、もう一種 Cicindela kaleea Bates (Proc. Zool. Soc. Lond., p. 340, (1866)) に就いて記して置く。

1941年8月大阪大鐵百貨店主催昆蟲標本同定會に於て一學生の持參した標本中に偶然その一端を検したが、採集地、採集月日等明らかならず、本種を當地方の Fauna に加へるべく極力努力したが、蟲友諸氏の戰災及筆者の應召等により調査が出来なかつた。依つて本文には之を集録しなかつたが、今後の調査如何に依り、京阪神地方の Fauna に加へる可能性を充分に有するものである。

因に本種は、日本(本州)・臺灣・沖繩・琉球・支那・印度支那等に廣く分布し、東京附近にては可成り普通に採集されて居り亦矢俊正俊氏は本種を靜岡縣より報せられてゐる。

8) 福島 弘: シロヘリハンメウの生活の一部、浜速高校尋常科博物同好會々誌 No. 10, p. 16-p. 18 (1936).

9) 神谷一男: 日本の甲蟲, Vol. I, No. 2, p. 113 (1937).

10) 赤藤勇義: 日本の甲蟲, Vol. II, No. 2, pp. 62-64 (1938).

11) 矢俊正俊: 昆蟲界, Vol. IX, No. 86, p. 262 (1941).

參 考 文 獻:

- Bates, H. W. (1873): On the Geodephagous Coleoptera of Japan (Tran. Ent. Soc. Lond., pp. 219-322, ref. pp. 222, 225 & 228)
- (1883): Supplement to the Geodephagous Coleoptera of Japan. (Tran. Ent. Soc. Lond., pp. 205-290, ref. pp. 213-215)
- 平山修次郎 (1934): 原色千種昆蟲圖譜 pl. 68, f. 6-13.
- (1937): 原色千種續昆蟲圖譜 pl. 68, f. 28-37.
- (1940): 原色甲蟲圖譜 pl. 8, f. 34-35.
- 神谷一男・安立綱光 (1933): 原色甲蟲圖譜 pl. 1-2.
- 鹿野忠雄 (1923): 朝鮮産斑蝥・步行蟲既知種目錄 (昆蟲世界, XXVII, No. 315, pp. 377-384, ref. pp. 377-378).
- (1924): 日本領土内に産する斑蝥科目錄 (昆蟲世界, XXVIII, No. 321, pp. 154-160)
- (1924): 増産訂正朝鮮産斑蝥・步行蟲目錄 (昆蟲世界, XXVIII, No. 321, pp. 247-352).
- 加藤正世 (1933): 原色日本昆蟲圖鑑第四九・五〇圖
- 三輪勇四郎 (1936): 日本動物分類「斑蝥科」
- 松村松平 (1905): 日本千蟲圖解, II, pl. 30, pp. 125-132.
- (1931): 日本昆蟲大圖鑑 pp. 99-104.
- (1931): 日本通俗昆蟲圖說第3卷 (甲蟲の部) pl. I, f. 1-13, pp. 1-3.
- 尾池一清 (1940): 日本産 *Cicindela* 屬 *Silvalica-hybrida-Campestris* 群の分布に就いて (關西昆蟲學會々報, Vol. X, pt. I, pp. 14-19).
- 關公一 (1933): 御影町附近の甲蟲目錄 (其ノ三) (昆蟲界, Vol. I, No. 5, pp. 491-494).
- 瀧口浩 (1934): 大台ヶ原山昆蟲採集品目錄 (關西昆蟲學會々報, No. 5 pp. 42-49)
- 高橋壽郎 (1942): 神有沿線甲蟲相(一), (昆蟲世界, Vol. XLVI, No. 543, pp. 331-332)
- 戸澤信義 (1932): 箕面産昆蟲目錄
- 檢山桐郎 (1930): 日本の甲蟲, 第二〇圖, pp. 160-163.
- (1931): 續日本の甲蟲, 第二〇圖, pp. 158-159.
- (1932): 日本昆蟲圖鑑「斑蝥科」, pp. 825-831

甲蟲類の異常個体二例

大澤省三

(昭和20年12月30日受領)

甲蟲類の異常型や畸型に關する報告は、相當な數に上つてゐるが、筆者も茲にその二例を紹介し、諸賢の御参考に供し度く思ふ。

小文を草するに當り種々御教示を辱ふした中根猛彦氏、及び發表の機會を與へられたる大倉正文氏に對して深謝の意を表する。

Paratrichius doenitzii Halold オホトラフコガネの黒化型 Fig. 1

一見♀に類した色彩を呈する、正常型に比し頭楯の前縁が黒色を呈し、頭頂は完全に黒化、前胸背は殆ど黒化し中央部縦の斑紋が正常型より細く、且前後兩縁に達する事なく、外縁を取巻く斑紋が後縁角附近に細く痕跡を留めてゐる。

小楯板黒色。翅鞘は小楯板周圍に於てV字形に正常型より細く不明瞭に、前縁角附近にも同程度に、正常型に於ける4紋の位置にはそれより著しく細い短い痕跡が認められる。尾節板は後方に比較的大きな隋圓形の2紋と、前縁に沿つて中央で細く、兩端で太い斑紋を残す。體下面は前胸側板、前肢基節、中胸腹板の夫々一部と腹部第4節、第5節の中央部に横に長く、兩側縁附近に少しく原紋の痕が認め得る外は殆ど黒化。肢は正常型に比して暗色を帯びてゐる。

體長：12 mm (普通見られる正常型に比し小さいが、之は産地に依る變異と思はれ、同時に採集した正常な1♀も大體同じ程度の大きさであつた。) 13-VI-1943、岐阜縣深澤峡、筆者採集並びに所藏。

本個體は野外採集品の爲、黒化現象成因の追究は殆ど不可能であるが、學兄江上信雄氏は *Phytodecta rubripennis* BALY *Ph. nigroplagiata* BALY との遺傳關係を調べられた際、多數の個體を飼育されたが、*Ph. rubripennis* が幼蟲、蛹時代の多濕に依つて黒化する事を確められたから、ある場合には多濕が有力な原因になる事があるものと思はれる。尙新島・木下兩氏(北大演習林報告 IV, 1927, p. 75) は“雄標本中ニ此ノ色彩ヲ異ニスルモノ稀ニ存在ス”と記され朝鮮産1例を示されて居り、後に近藤英夫氏(日本の甲蟲, III-1, 1939, p. 10) は♀に於て翅鞘に♀の色彩を示す興味ある1例を報告すると共に、♀は變異多く、新島・木下兩氏の記された如き黒化型は間々見られるものである事を指適した。但し新島・木下兩氏の場合は果して黒化に依るものか、他の要因によるものかは記述が簡單な爲判定する事が困難である。



Fig. 1

Onthophagus atripennis Waterhouse' コブマルエムマコガネ♀の畸型 Fig.2

前胸背，正常の♀に於ける 2 個の疣状隆起のある部分には，よく發達した♀と同程度の大きさの隆起が中央に 1 個のみ認められ，且隆起の稍下より後縁の稍上まで比較的明瞭な縦溝を有する。又左後縁角附近が稍顯著に削られ，表面中央稍上に不明瞭な凹陷が存する。



Fig. 2

體長：8.2 mm, 27—VIII—1942, 長野縣富士見臺，筆者採集並びに所藏。

本畸型は Onthophagus に於ける種的特徴の比較的顯著な前胸背に現はれてゐる爲一見 atripennis とは異つた種類の如き感があるが，頭部の構造その他に依り atripennis と判定した。(Dec. 24, 1945)

近畿甲蟲同好會會則

- 第一條 本會ハ近畿甲蟲同好會ト稱ス
- 第二條 本會ハ甲蟲類ノ研究ニ興味ヲ有スル者ノ連絡，親睦ヲ圖リ斯學ノ普及，發達ヲ促シ特ニ近畿地方ニ於ケル甲蟲類研究ノ發達ヲ期スルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ次ノ事業ヲ行フ
1. 機關誌「近畿甲蟲同好會報」(當分年六回)ノ發行
 2. 其他甲蟲ニ關スル臨時出版物ノ刊行
 3. 懇談會，採集會，展覽會等ノ開催
 4. 其他必要ト認ムル一切ノ事業
- 第四條 本會ハ甲蟲類ノ研究ニ興味ヲ有シ，本會ノ趣旨ニ賛同セル者ヲ代テ組織ス，會員ヲ分チテ次ノトス
1. 名譽會員 本會ヨリ推薦ス
 2. 賛助會員 一時金百圓以上ヲ納ムルモノ
 3. 正會員 毎年金拾圓ヲ納ムルモノ
- 第五條 本會ハ幹事若干名ヲ置キ會務ヲ分掌ス
- 第六條 本會ノ事業年度ハ曆年トシ，之ガ維持ハ會費並ニ寄附金ヲ以テ充ツ
- 第七條 本會ニ入會セントスル者ハ入會申込書ニ相當記入シ，會費一ケ年分ヲ添ヘ本會事務所ニ申込ムベシ，又本會ヲ退會セントスル者ハ其旨届出ズベシ，但シ既納ノ會費ハ返付セズ
- 附 則 本會ノ事務所ハ當分ノ間左記ニ置ク
- 三重縣一志郡久居町大字二ノ町
一八四一番地(大倉正文方)

近畿甲蟲同好會事務所
振替口座大阪 121, 157 番

投稿規定

1. 投稿ハ會員ノモノニシテ，甲蟲類ヲ對照トシセルモノニ限り之ヲ受領ス，併シテ規定ニ反スルモノ及ビ幹事ニ於テ不適當ト認ムルモノハ訂正ヲ乞ヒ或ヒハ會報登載ニ應ゼザルベシ
1. 原稿ハ平假名左横書トシ，動植物名ハ片假名トシ學名ヲ先行セラレタシ，歐文ハ成可クタイプライターニテ認メラレタシ
1. 筆者名及ビ學名中ノ命名者等ハ必ズ全記セラレタシ
1. 成可ク挿圖，寫眞ヲ附セラレタシ
1. 別刷ハ當分間會費ヲ申受ケ，且用紙事情ニヨリ部數ヲ制限スルコトアルモ希望者ハ原稿第一頁ニ其旨明記セラレタシ

1. 原稿締切ハ會報發行前三ケ月
1. 投稿宛名 當分ノ間
大阪府吹田市東旭町一三四〇

林 匡 夫 方

會員募集!

昆蟲類の大多數を占める甲蟲類に深い興味を持つ人は極めて多いこと考へられる，全國唯一の甲蟲類専門の研究機關たる本會に奮つて入會し以て益々斯學の振興，發展の高貢獻せられんことを希望して止まない。

同人 大倉正文，林匡夫，中根猛彦，阪口浩平，伊賀正汎，西村猛，後藤光男

定 價(稅共) ¥ 2.40